

訪問日：2017.9.12 / エリア：京都

京都BBS連盟

左より) 坂本さん、高野さん



回答者

坂本 龍哉さん(京都 BBS連盟会長)
道野 重信さん(京都保護観察所統括保護観察官)

高野 祥生さん(京都 BBS連盟事務局長)
中野 瑛朗さん(京都保護観察所保護観察官)

活動の概要

BBSとは、Big Brothers and Sisters Movementとして、もともとはアメリカで始まった活動で、京都の戦災孤児などを支援する活動として立ち上げられました。

京都 BBS 連盟は、13 地区で構成されていて、地区ごとの活動を行なっています。活動の大きな目的は、更生保護と非行の防止です。活動の範囲は近畿全般です。非行防止活動の一環で、少年院の訪問もさせてもらっています。

防犯に関する意識を持ってもらうこと、社会復帰を目標にしながら、地区ごとに地域の小学生や、引きこもり、ひとり親家庭など社会的な課題を抱えた少年が参加できるグループワークやものづくり、工作の企画を考えています。保護観察処分を受けた少年や、引きこもりなどの課題を抱えている子どもには、「ともだち活動」という社会参加のお手伝いをしている活動があります。地域の保護司会や更生保護女性会、家庭裁判所、保護観察所、児童相談所、児童自立支援施設、ユースサービス協会などのプログラムに協力する形で活動を実施しています。BBS は、犯罪や非行のない明るい社会の実現が目的なので、それに当てはまれば、連携して幅広く活動を展開しています。

ほとんどの活動会員が大学生です。ボランティア活動、サークル活動のような形で会員を募集します。資金的なバックアップは、更生保護協会などが社会復帰を支援する民間の更生機関に出す助成金、また会員からの連盟への入会費、地区ごとの活動会費で成り立っています。

文化活動について

レクリエーションやイベントは地区ごとの企画者が計画しています。会員で合唱をしたり、お菓子や料理づくり、おもちゃ作りなどをしたりします。昔は、防犯についての演劇、寸劇のような

ものを学校で上演しに回っていたこともあったそうです。

大学生だからこそ出てくるアイデアは、文化芸術活動というより、ものづくりの方面で様々に発展しているかもしれません。非行の防止への意識を高めるために、意識を変えることも重要ですが、何よりも子どもに興味を持ってもらわないといけないと思っています。料理作りであれば、レシピを決めて、買い出しをし、作るまでをやってもらうときもあります。迷路を作って防犯クイズを中に置くなど、色々なアイデアを出しています。

企画者が芸術を取り入れたいと思う人であれば、企画が芸術活動寄りになります。自由な発想で子どもたちに挑戦してもらおうという意味では、芸術につながる場所があるかもしれません。

少年との活動の課題

子どもには、いきなり更生保護の活動団体ですと伝えると、参加しづらくなるかもしれないので、みんなで遊びの活動をしましょうというメッセージを伝えています。幼稚園から中学生・高校生まで幅広い層が参加者となっています。大学生の会員が小さな子どもに対して怒ったり、うまく表現ができない子のことを、分かってあげたりすることは難しく感じています。

反対に高学年では、企画の内容があまりに簡単すぎると、つまらなくなってこんなやりたくないと言ってしまう子どもも出てきます。活動によっては、イベントの運営側、BBS の会員側に回ってもらうこともあります。例えば、水鉄砲など普段一人でできないことや、巨大な折り紙を折るなど今までやったことがないことをすると盛り上がります。

イベントや企画への参加者は、声を掛ける対象によって集まりにばらつきがあります。地域の小学生などは集まりやすいですが、保護観察所など関係機関から来られる方は、様々な課題を抱えていることが多く、集まりにくいこともあります。

年に3回研修会をしていて、問題があった事例の検討や、振り

様々な問題を抱える少年と、兄や姉のような身近な存在として接しながら、少年が自分自身で問題を解決し、健全に成長していくのを支援するとともに、犯罪や非行のない地域社会の実現を目指す青年ボランティア団体として、全国で活動している。

〒602-0032

京都市上京区烏丸通今出川上る

岡松町255 京都保護観察所内

TEL: 075-441-5141

FAX: 075-417-2046

返りをしています。あの時どうすればよかったかというような反省は常々あります。保護観察中の対象者のプライバシーに関わる問題、例えば、子どもと遊ぶときに対象者が来ているかを参加する子どもたちの保護者に伝えるかどうか、子どもたちが簡単に写真を撮ってSNSにあげてしまうといったときに、どう制限するかなど答えがない問題も議論しています。報告書も作っていますが、広報としてというよりも、次の年の活動に向けて、内部で活用するために蓄積しています。

大学生ということで、役職を担う人も1年単位で変わるため、長期的な計画を立てることが難しいです。また、入会する大学生が少なくなってきたという現状もあります。非行という問題が不透明化しているのか、大学生の問題への関心が薄いのか、それとも年ごとにばらつきがあるのか、それは調査をしたわけではないので、よく分らないですが、適切な人材が少ないと言えると思います。

行政に今後求めること

今までにないことをする、芸術分野を取り入れたいというときに、窓口になってもらえるとありがたいです。